

平成28年度 府立城陽高等学校 学校経営計画（スクールのマネジメントプラン）計画段階

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
努力する心をはぐくみ、知・徳・体の調和のとれた心豊かでたくましい生徒の育成を目指す。あわせて、自ら進路を切り拓く能力や態度を養う。また、あらゆる教育活動を通して、生命と基本的人権を尊重する態度や実践力を育成する。	・ 高校生としての身だしなみやマナーに重点を置いて指導し特に女子生徒のスカート丈やネクタイ・リボンの着用の改善に成果をあげた。今後も規範意識及び社会性を醸成するために教職員の共通理解の下で統一した指導を継続する必要がある。 ・ 授業規律の確立に重点を置き、良好な教育環境のもととなる「穏やかなクラスづくり」にも一定の成果をあげた。今後、「分かりやすい授業」とともに「力をつける授業」を一人ひとりの教員が意識した上で、教科としての取組が必要である。 ・ 「TAG城陽」の取組を地域の人材を生かして一層発展させ生徒に「なりたい自分」を考えさせ、生徒の進路意識を醸成するとともに、高校卒業後の進路保障の取組の強化が必要である。 ・ 1年生の全員部活動等加入・活動を推進するとともに、Joyo Advance Clubの育成に努め、部活動の一層の活性化に向けて競技力の向上のみならず学校全体・地域との関わりを持った具体的な取組を実施する必要がある。	地域に信頼される学校として、城陽高校のアイデンティティを確立すべき次の取組を短期経営目標とする。 1 生き生きとした教育活動を実践するために、教職員相互のコミュニケーションを大切に、連携協力と資質向上を図る。 2 厳しさの中にも愛情ある指導によって規範意識を高めながら、人権尊重を基盤にした節度と自覚ある行動が取れる人間づくりをめざす。 3 教育環境を整備し、授業を中心とした学習活動を見直し、確かな学力を定着させ、「生徒が伸びる学校」として、自らが進路を切り拓く能力や態度を養う。 4 部活動の活性化をはじめ学校生活全体の充実と発展に努め、文武両道の精神を育成するとともに、主体性を持った自立できる「人間力」を身に付けさせる。 5 「TAG城陽」の取組を充実させ、地域との連携を深めると同時に、帰属意識の涵養と母校愛の醸成に繋がる行事やイベントに積極的に参加する。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
組織・運営	教育の質的向上を図るためのシステムを確立する。 学校関係者評価委員会、学校評価会議で達成度・課題を明確にして改善を図る。	・ 部長会議を充実させ、各種会議とも連携を図り効率的な運営を図る。 ・ 担任、教科担当、分掌間の意思疎通及び共有を図る。 ・ 保護者、関係者及び生徒アンケートの実施。 ・ 学校ホームページの積極的な更新。 ・ 城陽50プロジェクト会議の開催及び実践。		
教育課程の編成と実施	質の高い学力の向上を促し「力をつける授業」への改善	・ ひとり一人の進路希望の実現に向けた新しい教育課程の工夫。 ・ 地域や本校生徒の状況を踏まえての教育課程の実践。		
教科指導	基礎学力を定着させる。 教科指導力を高める。	・ 「基礎固め学習会」や「基礎補充」をより効果的に機能させ、成績不振生徒への指導を教員間で密にすることにより中退・原級留置の防止を図っていく。 ・ ベル着の徹底や授業開始および終了時のあいさつの徹底を全教職員で一致した指導をすることにより、落ち着いた規律ある学習環境づくりを目指す。 ・ 教科書、問題集、ノート等の私物を持ち帰りを徹底し、各教科で家庭学習を促す取組を計画・実践し、全教職員で一致した指導を行っていく。 ・ 指導内容・指導方法の工夫・改善を教員が相互に研鑽できるように、授業アンケート有効に活用し、また、授業の公開を各教科に働きかけていく。		

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
生徒指導	学校生活を中心に据えた基本的生活習慣を確立させる。	・基本的生活習慣の確立に向けて、ＨＲ掲示や学年集会、全校集会などを通じて啓発指導を行う。 ・年間をとおして服装・頭髪・装身具などの身だしなみ指導と毎日の登下校時に校門や水度参道で、通学マナーや交通ルールの指導を行う。 ・校門での挨拶指導及び遅刻指導を学年とも連携し重点的に行う。元気のいい挨拶ができるように教員からも声かけをし、遅刻数に応じて、各家庭との連携を密に行う。				
特別活動	入部率を高め、部活動、生徒会活動、ボランティア活動を活性化する。	・Joy o Advance Clubを中心に意識の向上と活動の活性化のための指導を行い、全体の入部率を男子は８０％、女子は６０％に向上させる。特に運動部への入部率を向上させる。 ・生徒会活動を中心として、各委員会やボランティア活動を活性化する。				
人権教育	豊かな人権感覚を育てるために、学年や分掌と連携して、人権尊重の実践的態度を育む。さまざまな人権問題について学習を深める。	・新たな人権学習のあり方を検討し、実行する。 ・年２回、教職員人権教育研修会を行う。 ・「人権教育だより」の発行を通して、人権教育をすべての全教職員にフィードバックする。				
進路指導	生徒の進路意識を早期に高め、受験に向けた学力を向上させる。	・生徒一人ひとりが将来の「なりたい自分」を考える機会として、「どれ道学習」や「分野別進路ガイダンス」等の「TAG城陽」の取組を充実させる。 ・「生徒が伸びる学校」として、自ら進路を切り開く能力や態度を養うために、授業を補うための進路補講、土曜教室、業者模試等を効率的に実施する。 ・教職員や生徒に最新の進路情報を適切に提供するため、進路指導研究協議会や進路関係業者と連携し、進路研修会等の実施や「進路だより」の発行、有益な進路情報誌の配布等を行う。				
安全管理	生徒が安心して学べるように環境整備・校内美化に努める。	・美化・安全点検を日常的に行い、環境美化活動を活性化させ、校内とその周辺の美化と安全管理に努める。 ・保健委員会活動を推進し、委員会ニュース等を活用して、健康や校内美化の啓発に努める。				

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
財 務	安全な教育環境を確保する。	・ 節電に努めつつも、生徒が快適な環境で学習できるよう、冷暖房の適正な管理を行う。				
		・ 開校から４３年経ち、施設設備の劣化が激しいが、危険箇所の早期発見に努め、生徒が安心して学校生活を送れるように努める。				
広報活動	地域からの信頼や期待に応えられるよう、魅力ある広報活動を行う。	・ 山城合同学校説明会及び本校学校説明会・部活動体験、個別相談会を各部活動顧問や分掌と連携し、本校の特色を明確にする。				
		・ 城陽高校NEWSの年４回発行とともに、ホームページの可及的速やかな更新に努める。メールサービス等を利用して本校の特色や取組状況等を外部に向けて積極的に情報発信する。				
学校関係者 評価による評価						
次年度に 向けた改善 方向性						